

## 第5分科会 医療施設と在宅をつなぐケア

～多職種連携で患者を支える～

- ◇運営委員 高橋 多鶴子 (全日赤医療センター第一労組)  
小笠原めぐみ (慶応病院労組)  
松田 加寿美 (日本医労連中央執行委員)
- ◇助言者 内野 陵子 (元勤医会東葛看護専門学校副校長)

安倍政権が進める社会保障・税「一体改革」のもと、医療・介護の提供体制が2025年をめどに大きく再編成されてきています。医療費抑制のための病床削減、「地域包括ケア」の構築を着々と進め、H28年には各都道府県からの病床機能報告がされ、在宅療養体制が未整備のまま病床削減が行われています。

また、医師業務を看護師が行えるよう厚労省発表ではH27年から583名が「特定医行為研修」を終了し、さらに看護師の行っていた業務をますます介護者や家族に移行しています。

現在急性期病院に入院した医療依存度の高い患者が短期間で在宅療養、あるいは療養型病院へ転院を余儀なくされています。更に超高齢社会となった今、老老介護、認認介護、独居高齢者が在宅療養を送るために相当な援助が必要となり、在宅の現場では、スタッフも家族も毎日奔走している状態です。

在宅療養の担い手である、訪問看護や、訪問診療、訪問介護のニーズは多種多様となっていますが、まだまだ従事するスタッフの処遇改善が不十分であり、その数は充足していないため、多くの課題や問題が生じています。

この分科会は、患者が安全で安定した在宅療養生活をおくるために、どのように連携し、それぞれの専門性を発揮し、役割を果たしてゆくのか、患者のニーズに即した実践をしてゆくのか」について学び、経験交流します。医療と介護の両面が求められている今、病院や診療所などの医療施設に従事するスタッフと、在宅療養を支える訪問看護、訪問診療、訪問介護にかかわるスタッフ等多職種の参加をお待ちしています。様々の困難の中での取り組みを報告しあう中できっと元気になり、「職場に戻ってがんばってみようかな」と実感できるはずです。

■レポート募集 (以下の内容のレポートお待ちしております。)

- ・外来看護の実践に関するもの
- ・在宅療養移行のための退院調整や地域連携の取り組みに関するもの
- ・訪問診療、訪問看護の実践に関するもの
- ・介護施設や訪問介護での実践報告に関するもの